2024年度　講義要綱

科　目	コミュニケーションⅠ 必修 講義	講　師	松森 照幸
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)		
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美)		
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出　50点
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	1　オリエンテーション		
	2　クラス活動①		
	3　コミュニケーションプログラム担当:三浦さなえ		
	4　クラス活動②		
	5　クラス活動③		
	6　産学連携		
	7　クラス活動④		
	8　クラス活動⑤		
	9　クラス活動⑥		
	10　クラス活動⑦		
	11　クラス活動⑧		
	12　産学連携		
	13　クラス活動⑨		
	14　クラス活動⑩		
	15　クラス活動⑪		
	16　オリエンテーション		
	17　クラス活動⑫		
	18 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう		
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか　課題提出		
	20　クラス活動⑬		
	21　産学連携		
	22　就職にむけて(1)担当就職相談室		
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代		
	24　就職に向けて(2)担当就職相談室		
	25 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか　課題提出		
	26　クラス活動⑭		
	27　産学連携		
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃		
	29　クラス活動⑮		
	30 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優		

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	松森照幸：実務経験のある教員による授業に該当。 【認定絵本士養成講座担当講師】 〇なかむらしんいちろう：講座責任者　〇井上まどか：絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者　〇江花志乃：書店における絵本の売り場つくり、及び、絵本の出版流通に精通した者　　〇武田優：図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者　〇横山雅代：書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 ％	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 ％
	社会人としての基本	20 ％	主体性 素直 思いやり	10 ％
	他者と関わる力	20 ％	専門的知識・技術	10 ％

2024年度　講義要綱

科　目	体育講義 必修 講義	講　師	菊池 一英
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育（幼児体育）がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。		
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。		
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度（20点） リアクションペーパー提出（30点）
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	実技種目で積極的に体を動かす（20点）チームで協力する姿勢を見せる（30点）
授業方法	講義形式、グループワークトーキング（GW）、DVD視聴、実技体験		
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要、目標、評価、服装など） 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？		
	2　運動遊具を使う遊び（マット）※実技		
	3　幼児体育の意義と社会的背景とは？		
	4　運動遊具を使う遊び（巧技台）※実技		
	5　保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー＜DVD視聴＞		
	6　産学連携		
	7　リズムダンス遊び※実技		
	8　健康観の変遷		
	9　体育、幼児体育の歴史的変遷		
	10　体育遊びへの導入と展開（鬼遊び）※実技野外指導		
	11　健康とは何かを問い直す＜DVD視聴＞		
	12　産学連携		
	13　幼児期の身体発達と運動能力の特徴		
	14　幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？		
	15　発育・発達・成長とは何かを問い直す＜DVD視聴＞		
必須テキスト	特に指定なし		
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト　菊池一英著		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	30　%	専門的知識・技術	20　%

2024年度　講義要綱

科　目	日本語 必修 講義	講　師	横山 雅代
授業概要	日本語の豊かさを知り、自分の言葉を持つことや表現することの大切さをより深める。		
授業目標	日本語の豊かさを知り、自分の言葉を持つことや表現することの大切さをより深める。		
到達目標1	感想に、その授業で感じたこと、考えたことを具体的に記述できるようになる。またその考察も書けるようになる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	感想に、自分の感じたことや考えたことが書かれているか、どうしてそう感じたか考えたかの考察が書かれているか（75点）
到達目標2	他者の考えを聞くことができ、尊重しあえる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	感想に、他者の発表や意見を聞いて感じたこと、考えたことが書かれているか（25点）
授業方法	様ざまな絵本をとりあげながら、講義とワークショップ形式で進める。		
授業計画	1　オリエンテーション（あいうえお作文とほめ言葉で自己紹介）		
	2　わらべうた～かぞえうた～かぞえかた		
	3　なぞなぞとダイアローグ		
	4　音のいろいろ		
	5　詩のいろいろ		
	6　産学連携週		
	7　色のいろいろと自然のことば		
	8　食のいろいろ		
	9　絵本テキストの比較		
	10　オノマトペを作る		
	11　人称の変換		
	12　産学連携週		
	13　視点と文体		
	14　現代社会と絵本表現		
	15　まとめ（みんなで絵本を作る）		
必須テキスト	必要な際にプリントを配布		
参考文献	必要な際にプリントを配布		
担当教員の専門分野等	絵本、紙しばい、児童書の編集歴30年		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	25　%
	他者と関わる力	25　%	専門的知識・技術	10　%

2024年度　講義要綱

科　目	保育原理 必修 講義	講　師	大河 芙美
授業概要	・事例を通して保育の知識や目的などを学習する。 ・子どもの姿を知り、子どもに寄り添う保育を考える。 ・グループ学習やゲームを通して、保育者にとって大切なコミュニケーション力を養う。		
授業目標	・保育の考え方、自己分析力、観察力を養い、自ら行動する積極性を身に付ける。 ・チームワーク、連携を大切にし、安定した人間関係が構築できるようになる。		
到達目標1	積極的に授業に参加し、社会人としての心得を身につける。また、コミュニケーションをとりながら自分が大切にしたい保育を探ることができる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	出席率、 授業態度（積極性、コミュニケーション力など）50点
到達目標2	保育士として使用、守るべき法令、規則が何でどこを確認すればよいか分かる様になる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	テストによる評価、50
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。		
授業計画	1　ガイダンス～授業の進め方、保育とは何か　保育の目的と意義～		
	2　保育の思想と歴史の理解		
	3　保育に関する法令、制度について		
	4　子どもの最善の利益とは		
	5　子ども・子育て支援新制度		
	6　産学連携		
	7　保育所保育指針とは		
	8　子どもの理解に基づく保育の過程		
	9　保育者の役割と責務		
	10　保育内容について		
	11　子どもを理解する～事例検討～		
	12　産学連携		
	13　子どもを理解する～事例検討～		
	14　保護者支援・対応の在り方		
	15　保育の現状と課題　まとめ		
必須テキスト	『保育所保育指針解説』平成30年3月、厚生労働省		
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布いたします。		
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10%　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10%　%
	社会人としての基本	30%　%	主体性 素直 思いやり	20%　%
	他者と関わる力	20%　%	専門的知識・技術	10%　%

2024年度　講義要綱

科　目	教育原理 必修 講義	講　師	濵本 潤毅
授業概要	「教育」とはそもそも何かという問いを、思想・歴史・現代社会の三つの視点から考えることを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深める。		
授業目標	1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。		
到達目標1	授業内容を実体験にそくして理解し、自分なりの考えを表現することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度・グループワーク等への参加度（30点） 毎回のリアクションペーパー（20点）
到達目標2	教育に関する概念について問いを立て、文献を通して調べることができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	毎回のリアクションペーパー（20点） 学期末のレポート（30点）
授業方法	スライド資料・ビデオ教材を使った講義形式。ディスカッションやグループワークも適宜行う。		
授業計画	1　思想①：イントロダクション――「教育」のそもそもを考える		
	2　思想②：「教える」とはどういうことか		
	3　思想③：「子ども」とはどういう存在か		
	4　思想④：「学校」は何のためにあるのか		
	5　歴史①：近代日本の「学校」のはじまり		
	6　産学連携		
	7　歴史②：大正時代の「教養」と新教育		
	8　歴史③：戦時中・戦後の教育と「民主主義」		
	9　歴史④：高度経済成長と「若者」の誕生		
	10　歴史⑤：現代の「教育問題」		
	11　現代①：「学び」と学力・能力		
	12　産学連携		
	13　現代②：学校と「地域」社会の関係		
	14　現代③：教育における「ジェンダー」		
	15　現代④：教育と「テクノロジー」のこれから		
必須テキスト	神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』有斐閣、2023年		
参考文献			
担当教員の専門分野等	教育哲学専攻。専門は発達に関する思想史研究。東京大学教育学研究科博士課程在籍。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	30　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	20　%

2024年度　講義要綱

科　目	子ども家庭福祉 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする		
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。		
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べることができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。		
授業計画	1　オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念と概念		
	2　子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向		
	3　子どもの人権擁護		
	4　子ども家庭福祉の制度と実施体制		
	5　子ども家庭福祉の施設と専門職		
	6　産学連携		
	7　少子化と地域の子育て支援　母子保健と子どもの健全育成		
	8　多様な保育ニーズへの対応		
	9　子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止		
	10　貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応		
	11　社会的養護		
	12　産学連携		
	13　障害のある子どもへの対応		
	14　少年非行への対応　/ テスト・振り返り		
	15　まとめ		
必須テキスト	「新基本保育シリーズ6　子ども家庭福祉　第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8786-8		
参考文献	参考資料は授業時に紹介。		
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2024年度　講義要綱

科　目	社会福祉 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。		
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者保護の仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。		
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。		
授業計画	1　社会福祉の理念と歴史的変遷		
	2　子ども家庭支援と社会福祉		
	3　社会福祉の制度と法体系		
	4　社会福祉行財政と家庭機関、社会福祉施設等		
	5　社会福祉の専門職		
	6　産学連携		
	7　社会保障および関連制度の概要		
	8　相談援助の理論、相談援助の意義と機能		
	9　相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術		
	10　社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ		
	11　少子高齢社会における子育て支援		
	12　産学連携		
	13　共生社会の実現と障害者施策		
	14　在宅福祉・地域福祉の推進、テスト・振り返り		
	15　まとめ		
必須テキスト	「新基本保育シリーズ4　社会福祉　第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8787-5		
参考文献	参考資料は授業時に紹介。		
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2024年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅰ 必修 講義	講　師	森脇 晋
授業概要	今日、子どもを取り巻く環境は多様化複雑化し、保育所に通う園児の中にも社会的養護を必要とするものがいる。そこで、保育者としてどのような職場で活躍するにせよ、自身が関わる子どもの最善の利益を守るために必要な最低限の社会的養護の知識・マインドの習得を目指す。		
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。		
到達目標1	社会的養護の概念を理解し、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の役割を説明できる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	第7講における小テスト(20点)、期末試験(第15講における総まとめテスト) (30点)
到達目標2	社会的養護の現状と課題、将来像を子どもの人権擁護の観点や歴史・制度等を踏まえて説明できる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	各講における発表・リアクションレポート(30点)、レポート課題(20点)
授業方法	具体的な事例や動画を織り交ぜながら、受講者自身が考える場も用意した講義を展開する。		
授業計画	1　現代社会と社会的養護 ・社会的養護って何？　・児童福祉法における社会的養護の方向性		
	2　社会的養護の仕組み□ ・「施設養護」と「家庭養護」　・社会的養護にかかわる機関と関連する法律		
	3　措置を基本とする施設 ・措置制度とは　・乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設		
	4　利用・契約を基本とする施設 ・利用契約制度とは　・障害児入所施設・児童発達支援センター・母子生活支援施設等		
	5　施設に至るまでの経過・社会的養護の歴史 ・一時保護所　・シェルター等 ・日本の社会的養護の歴史　・海外の社会的養護の歴史		
	6　実際の施設においてこれまでの学びを振り返る1 （産学連携）		
	7　小テスト、振り返り ・1～6回までのまとめ　・1～6回までの補足		
	8　子どもの人権擁護と社会的養護 ・被虐待児等の人権擁護　・社会的養護における虐待		
	9　支援の実際 ・社会的養護に携わる人々　・社会的養護の支援内容		
	10　ソーシャルワークと家庭支援 ・ジェネラリストソーシャルワーク　・ファミリーソーシャルワーク		
	11　里親制度と里親支援・施設等の運営管理 ・「里親制度」と「養子縁組制度」　・里親支援 ・施設・里親等の運営　・施設等のリスクマネジメント		
	12　実際の施設においてこれまでの学びを振り返る2 （産学連携）		
	13　社会的養護の課題と将来像 ・社会的養護の課題と将来像に基づく運営指針　・新しい社会的養育ビジョン		
	14　社会的養護にかかわる専門職の倫理と研鑽 ・施設の紹介動画等　・施設職員の生涯研修体系		
	15　期末試験(総まとめテスト)、振り返り ・1～14回を通した振り返りのためのテスト　・総まとめテストの解説を通した全体の振り返りと補足		
必須テキスト	図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ　（萌文書林）		
参考文献	授業内で紹介する		
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験を元に、社会的養護の概念から最新動向に至るまでを、具体的な事例や動画を織り交ぜながら、受講者自身が考える授業を志向する。		

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 ％	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 ％
	社会人としての基本	10 ％	主体性 素直 思いやり	20 ％
	他者と関わる力	10 ％	専門的知識・技術	30 ％

2024年度　講義要綱

科　目	保育の心理学 必修 講義	講　師	前川 圭一郎
授業概要	1. 保育実践に関わる発達心理学の基礎知識を学ぶ。 2. 発達心理学や学習心理学の知見と保育実践を結びつけながら学ぶ。 3. 環境と個の相互作用の視点から、個々の発達について具体的に学ぶ。		
授業目標	教育・保育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習の過程への理解を深めることを目的とする。 生涯発達の過程とともにその発達が人との相互的関わりを通してなされていくことを理解する。また、子どもの学習の過程に関する基礎的知識を身につけ、主体的な学習を支える基礎を身につける。		
到達目標1	重要な発達理論を理解し、各発達時期の特徴と課題を結び付けて説明することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み（毎回の授業終了時に行うリアクションペーパー・小テストへの回答、20点）＋定期試験（30点）＝合計（50点） 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。
到達目標2	発達と学習の理論を踏まえて、「環境と個の相互作用」という視点から幼児の発達を説明することができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	討論への貢献度（グループワーク中に行うワークへの参加、20点）+発表レポート（30点）
授業方法	授業では、遠隔の人も対面の人も参加できるようにSLIDOなどの参加ツールを利用し、グループワーク、課題解決学習等を実施する。 基本的に、対面の場合には、講義・演習形式で行う。 具体的には、課題解決学習、ロールプレイ、等を実施する。		
授業計画	1　オリエンテーション：「心理学」・「発達」とは何か？		
	2　身体機能の発達と運動機能の発達		
	3　乳幼児期の特徴と発達Ⅰ		
	4　乳幼児期の特徴と発達Ⅱ		
	5　幼児期の特徴と発達Ⅰ		
	6　産学連携		
	7　幼児期の特徴と発達Ⅱ		
	8　ことばとコミュニケーションの発達		
	9　情動・社会性の発達		
	10　発達の多様性と凸凹について		
	11　「愛着」とは何か（その誤解と実際）		
	12　産学連携		
	13　科学に基づいた保育実践（応用行動分析学の視点から保育を考える）		
	14　就学移行支援と学齢期の支援		
	15　テスト		
必須テキスト	毎回の授業時に資料を提供する。また、副読本については、授業において随時紹介する		
参考文献	『保育学用語辞典（保育領域）』秋田らほか（2019）、中央法規		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2024年度　講義要綱

科　目	子どもの理解と援助 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。		
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する		
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	講義内容に関する筆記試験(40点)
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み姿勢（20点）、講義内容に関するレポート試験（40点）
授業方法	ワークシートを用いた講義		
授業計画	1　オリエンテーション：「子どもの理解とは？」（授業概要・目標・評価・持物等の説明）		
	2　子どもの育ちを支える現場を知る		
	3　子どもの育ちを支える現場①：乳児院		
	4　子どもの育ちを支えるために必要なこと①：乳児院の現場から		
	5　子どもの育ちを支える現場②：児童養護施設		
	6　産学連携週		
	7　子どもの育ちを支えるために必要なこと②：児童養護施設の現場から		
	8　子どもの育ちを支える現場③：母子生活支援施設		
	9　子どもの育ちを支えるために必要なこと③：母子生活支援施設の現場から		
	10　子どもの育ちを支える現場④：障害児入所施設		
	11　子どもの育ちを支える現場⑤：障害児通所施設		
	12　産学連携週		
	13　生涯にわたる支援の現場：障害者入所施設／通所施設		
	14　「理解と援助」のために：障害者支援施設の現場から		
	15　学期末試験		
必須テキスト	『ひと目でわかる　保育者のための児童家庭福祉データブック2024』全国保育士養成協議会（監修）、宮島清・山縣文治（編集）、中央法		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉（主に子育て支援）が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	20　%

2024年度　講義要綱

科　目	子どもの保健	必修 講義	講　師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	筆記試験50点	
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	提出物（課題、リアクションペーパーなど）40点 授業参加態度（授業態度やグループワーク参加態度など）10点	
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、児などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。			
授業計画	1 ・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介			
	2 ・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。			
	3 ・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。			
	4 ・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。			
	5 ・循環器系の生理的機能と発達および疾患 ・心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。			
	6			
	7 ・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。			
	8 ・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。			
	9 ・泌尿器系、内分泌、生殖系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・腎臓、ホルモン、生殖器、排泄（排尿、排便）など。			
	10 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。			
	11 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。			
	12			
	13 ・悪性腫瘍、障害など。			
	14 ・院内保育、病棟保育士など			
	15 定期試験			
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。			

担当教員の 専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。（産婦人科、外科など）。 取得資格・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 ％	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 ％
	社会人としての基本	5 ％	主体性 素直 思いやり	10 ％
	他者と関わる力	10 ％	専門的知識・技術	60 ％

2024年度　講義要綱

科　目	子どもの食と栄養 必修 講義	講　師	深川 卯子
授業概要	子どもの発育・発達と食生活の関連について栄養素などを通して学ぶ。 食育の基本とその内容・食育のための環境について学ぶ。 アレルギーなどの配慮の必要な子どもの食について学ぶ。		
授業目標	食品や栄養のことを理解し子どもや保護者に対して食育を行うための知識を習得する。 子どもに適切な食事がどのようなものか 献立などにどんな食品の組み合わせが適切かなどを通して理解し保育現場で対処できる		
到達目標1	子どもが食事をするときに適切に対応できる(楽しく食べる、バランスよく食べるなど) 離乳食・幼児食含む	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	講義内容に対する筆記テスト　通常の食事30点　　離乳食20点
到達目標2	保護者や子どもに食育を行うことができる。 アレルギー対応食を分かり子ども保護者に実践できる	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	食育の計画書25点 アレルギー対応25点
授業方法	教科書に沿っての講義形式による。復習テストを実施して理解を深める。 手元に教科書をおいて授業を受けてください。		
授業計画	1　発育期の食生活と栄養について、食育の大切さなど		
	2　栄養素について　基本の働きと食事　炭水化物、脂質		
	3　栄養素について　たんぱく質　ミネラル　ビタミン　　復習テスト①		
	4　食事摂取基準について　幼児に必要な量は　食品・献立を通してみる		
	5　乳汁期の食生活		
	6　産学連携		
	7　離乳期の食生活1		
	8　離乳期の食生活2　　復習テスト②		
	9　幼児期の食生活		
	10　食品群から献立への展開　　復習テスト③		
	11　食物アレルギーについて		
	12　産学連携		
	13　食育について1　計画書作成の要領など		
	14　食育について2　計画書作成（当日又は15回目に提出）		
	15　テスト		
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院		
参考文献			
担当教員の専門分野等	栄養の基礎（人体内における代謝など）。特に脂肪酸についての研究。調理と科学（小麦の特性について）。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	30　%

2024年度　講義要綱

科　目	保育の計画と評価 必修 講義	講　師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針と同解説書を用いながら、保育の計画と評価について、その意義と実際の運用についてに講義を聴き、保育士として理解し習得すべきことを重点的に学んでいく。その際、保育理論に関わる部分も同時に履修する。		
授業目標	1. 保育の全体的な計画及び指導計画を立案作成する意義とその運用を理解する。 2. 全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成及び評価の仕方について実際の作成事例を参照しながら、計画及び評価についてどのような点に留意しなければならないのか理解し、その方法を身に付ける。		
到達目標1	1. 毎回の授業において習得したことを文字等で表現できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み姿勢（20点）、授業において学んだことに関するレポート（30点）
到達目標2	2. 毎回の授業において習得した内容を質問や意見を通して深めながら保育の計画と評価の全体像をイメージできる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への貢献度（20点）、授業内容に関する質問や自己意見のレポート（30点）
授業方法	1. 保育所保育指針と同解説書を用いながら、保育の計画と評価の意義と実践について座学形式で学ぶ。 2. 授業内で用いるテキストを学生が音読したり授業内容に関する質問事項に答えたりしながら履修内容を確認する。実際の保育の計画や評価様式から計画の立て方や評価の仕方を実感する。		
授業計画	1 なぜ保育の計画と評価について学ぶのか。 見守る保育の三省について。 シラバスの解説。		
	2 保育とはそもそも何をすることか。 保育所保育の目標。 子どもの最善の利益、他。		
	3 保育とはそもそも何をすることか。 児童福祉法、子ども基本法、子どもの権利条約他。		
	4 人的環境、物的環境、空間的環境及び養護と教育の一体性について。		
	5 保育の方法ー子ども主体、子ども相互の関係づくり、他。		
	6		
	7 計画性のある保育を実践することの意義。子どもの発達。		
	8 指導計画のおおもととなる「全体的な計画」はどういう意味で作成されるのか。誰が作成するのか。		
	9 長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成すること。3歳未満時には個別の指導計画を作成すること。		
	10 子どもの実際の姿に基づいて計画を作成する。保育士が一方的に与える計画とはならないような指導計画の作り方。		
	11 子どもの主体的な活動を促す保育士等による多様な援助を引き出すような指導計画の作り方。		
	12		
	13 自らの保育実践を振り返りながら、自己評価をすること。		
	14 職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための評価。		
	15 子どもたちを見守る保育とは。 なぜ、見守る保育なのか？保育の計画と評価の観点から総まとめをする。		
必須テキスト	『保育所保育指針解説』（平成30年3月厚生労働省編）藤森平司著『見守る保育』（学研）		
参考文献	平成29年告示『保育所保育指針』公益社団法人全国私立保育連盟編『コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約』（エイデル研究所）		
担当教員の専門分野等	23年間認可保育園、認定こども園にて園長・副園長として現場勤務。保育者等の管理者として、子どもの権利条約、保育所保育指針に沿った保育現場の実現に携わる。現在、新宿せいが子ども園副園長、東京都福祉サービス評価推進機構評価者。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %

	他者と関わる力	20 ％	専門的知識・技術	20 ％

2024年度　講義要綱

科　目	保育内容総論 必修 講義	講　師	大河 芙美
授業概要	子どもを理解し、成長、発達に望ましい関わりができるよう、一人ひとりの育ちを把握し、柔軟な対応力を養う。		
授業目標	各年齢の発達過程を学び、保育内容や導入、その展開方法を学び理解する。		
到達目標1	自己理解を深め、目標に向かって主体的に取り組むとともに、他者との関わりを通して信頼関係を築くことができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	出席率、自主的な関わり、50点
到達目標2	専門的知識や知見を習得し、柔軟に活用することができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	他者との協力、グループ制作、50点
授業方法	グループワーク、ディスカッションなど、コミュニケーションを大切にした授業。		
授業計画	1　オリエンテーション		
	2　保育所保育指針を理解する①		
	3　保育所保育指針を理解する②		
	4　保育所保育指針を理解する③		
	5　産学連携を踏まえた、子どもとの関わり		
	6　産学連携		
	7　産学連携から得た学びのディスカッション		
	8　子どもの育ちを理解する①		
	9　子どもの育ちを理解する②		
	10　遊びを学ぶ		
	11　産学連携を踏まえた、子どもの遊び		
	12　産学連携		
	13　産学連携から得た学びのグループディスカッション。		
	14　模擬保育を考える		
	15　模擬保育を実践する		
必須テキスト	必要時にプリントを配布		
参考文献	保育所保育指針		
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	30　%	専門的知識・技術	10　%

2024年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠ 必修 講義	講　師	上田 亜津子、金渕 洋子、佐藤 季里、高橋 裕希子、木下 裕子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンかヘッドフォンを持参してください。(備え付けはありません)		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価(方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価(方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。		
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(Ⓐ Ⓑ2グループに分かれて45分で入れ替わる)		
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。		
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)		
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)		
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。		
	6　産学連携		
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑわらべ歌・手遊び歌の演習		
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌の演習		
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)		
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの演習		
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。		
	12　産学連携		
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。		
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導　(Ⓐ Ⓑ共)		
	15　実技試験(発表会)と各自の振り返り(ⒶⒷ共)		
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社		
参考文献	はじめての弾き歌い(日本児童教育専門学校編)		
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	15　%	専門的知識・技術	40　%

2024年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ　必修　講義	講　師	なかむら しんいちろう
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	授業に参加し、理解する。そして授業時間内に制作できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への参加、取り組んだ内容、回数で評価する。(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない）45点＋創意工夫5点
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	作品提出 (作品を撮影しteamsに画像を提出、提出回数やコメント、締切日厳守で評価) 45点＋その他　①グループワーク等での周囲との協力　②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー　③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等　5点
授業方法	1.実技　2.座学　（基本毎回課題提出）＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更		
授業計画	1　前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、材料配布 こいのぼり制作		
	2　フロッタージュを用いた制作:HB		
	3　デカルコマニーを用いた制作		
	4　自然物(草花)を用いた制作(天候を考え、授業の順を入れ替えることもある)		
	5　＜講義1＞幼児画特徴について:記入プリント:HB		
	6　産学連携		
	7　〇△□を組み合わせた制作:HB		
	8　紙コップを用いた工作		
	9　色の基本、貼り絵制作:HB		
	10　にじみ絵、はじき絵制作		
	11　＜講義2＞幼児画の発達段階について:記入プリント:HB		
	12　産学連携		
	13　ひっかき絵制作		
	14　紙の加工、ハサミの使い方:HB		
	15　スタンプを使った制作		
必須テキスト	特に指定なし		
参考文献	適宜紹介する		
担当教員の専門分野等	なかむら;絵本作家、イラストレーター 川原:児童教育全般、小学校講師 加藤: 絵本作家、イラストレーター		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	15　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2024年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅰ 必修 講義	講　師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。		
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。		
到達目標1	1, 乳児保育の意義や目的、歴史などの基本的な知識を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出（30点）試験（20点）
到達目標2	2, 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出（30点）試験（20点）
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介		
授業計画	1　オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について）		
	2　乳児保育とは		
	3　乳児保育の歴史について		
	4　乳児保育を支える法律について（児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準など）		
	5　乳児保育の基礎知識①　人間の赤ちゃんは無力なの？（ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性）		
	6　産学連携		
	7　乳児保育の基礎知識②　愛着形成（ボウルビィの愛着理論）		
	8　保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴		
	9　5～6か月児の発達の特徴、　乳児の睡眠について		
	10　7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて		
	11　9～10か月児の発達の特徴　乳児の授乳について		
	12　産学連携		
	13　11～12か月児の発達の特徴　乳児の離乳食について		
	14　1歳～1歳6か月児の発達の特徴　1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴		
	15　試験・まとめ		
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」 志村聡子編著者　同文書院		
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等（保育所、高齢者施設等）における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2024年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅱ 必修 講義	講　師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。		
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。		
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出（30点）講義内容に関する筆記試験（20点）
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出（30点）講義内容に関する筆記試験（20点）
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習		
授業計画	1　オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について） 身支度、抱っこの仕方、おんぶの仕方（講義＆実習）		
	2　乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について		
	3　乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について		
	4　乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際（実習）		
	5　乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について		
	6　産学連携		
	7　事例ワーク		
	8　沐浴の実際（実習）		
	9　授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について		
	10　授乳、離乳食の実際（実習）		
	11　事例ワーク		
	12　産学連携		
	13　かみつき、ひっかきについて考える①		
	14　かみつき、ひっかきについて考える②		
	15　試験・まとめ		
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」 志村聡子編著者　同文書院		
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等（保育所、高齢者施設等）における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2024年度　講義要綱

科　目	子どもの健康と安全　必修　講義	講　師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。		
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等		
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	定期試験（50%）
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	・授業参加態度（演習態度10%、授業態度10%） ・提出物（課題、リアクションペーパーなど）（30%） 合計50%
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・救急、応急処置法は演習を中心に行う。		
授業計画	1　子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。		
	2　子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。		
	3　子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。		
	4　実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。		
	5　けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。		
	6		
	7　自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。		
	8　自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。		
	9　救急処置法について学び、救急処置法を演習する。		
	10　救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。		
	11　救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。		
	12		
	13　子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。		
	14　授業全体をふりかえる。		
	15　筆記定期試験を行う。		
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑯子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規		
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布		
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。（産婦人科、外科など）。取得資格・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。		
この授業で	職業に対する理解　10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%

この授業で 身につく 「6つの力」	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2024年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅱ　必修　講義	講　師	森脇 晋
授業概要	社会的養護Ⅰで学んだことをベースに、施設養護や家庭養護の実際についてアクティブラーニング形式で理解を深める。具体的には、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際にも触れながら、日常生活支援・治療的支援・自立支援等の内容、子どもの福祉にかかわる保育士に求められる倫理・資質も学べるように演習する。		
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。		
到達目標1	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容を具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	第7講における小テスト(20点)、期末試験(第15講における総まとめテスト) (30点)
到達目標2	社会的養護における計画⇒相談・援助⇒記録⇒自己評価を理解し、実践することができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	各講における発表・リアクションレポート(30点)、レポート課題(20点)
授業方法	具体的な事例演習やロールプレー等において、受講者自身が考えるための情報提供をしつつ、演習を展開する。		
授業計画	1　社会的養護の理解のために ・社会的養護Ⅰの振り返り　・親子を救うための施設　・特別養子縁組		
	2　アドミッションケア ・アセスメント　・子どもの保護　・自立支援計画について		
	3　インケア（乳児院・児童養護施設等） ・信頼関係の構築　・乳児院・児童養護施設における日常生活支援および治療的支援の実際		
	4　インケア（児童心理治療施設・母子生活支援施設等） ・心のケア　・心理治療施設・母子生活支援施設における日常生活支援および治療的支援の実際		
	5　リービングケア・アフターケア ・社会への巣立ち　・生い立ちの理解 ・家庭復帰に伴うアフターケア　・就職・進学によって社会へ出た子どもへのアフターケア　・地域連携		
	6　実際の施設においてこれまでの学びを振り返る1 （産学連携）		
	7　小テスト、振り返り ・1～6回までのまとめ　・1～6回までの補足		
	8　ソーシャルワーク ・ソーシャルワークとは？　・ソーシャルワークの種類　・家庭支援と里親支援の実際を考えてみる		
	9　ソーシャルワークにおける利用者理解の技法 ・これまでの実習や子どもとの関わりの場面を、バイステックの7原則を通して振返ってみる ・ジェノグラム・エコマップを通して、子ども理解を深めてみる		
	10　社会的養護における記録 ・児童施設養護の日常生活支援における記録の取り方を通して、記録のあり方について考察する		
	11　社会的養護における自立支援計画 ・母子生活支援施設における自立支援計画の立案を通して、自立支援計画を策定する際の視点を考察する		
	12　実際の施設においてこれまでの学びを振り返る2 （産学連携）		
	13　社会的養護における第三者評価・自己評価 ・乳児院の第三者評価や自己評価を通して、施設運営上の留意点を考察する		
	14　社会的養護の担い手に対する考察 ・自己理解やストレマネジメント・アンガーマネジメントを通して、施設保育士とバーンアウト防止に関して考察する		
	15　期末試験(総まとめテスト)、振り返り ・1～14回を通した振り返りのためのテスト　・総まとめテストの解説を通した全体の振り返りと補足		
必須テキスト	図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅱ　（萌文書林）		

参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験を元に、社会的養護で実際に展開されている支援を、受講者自身が実際に疑似体験しながら考える授業を志向する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2024年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ⅰa 必修 講義	講　師	松森 照幸
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。		
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。		
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)
授業方法	講義、発表、グループワークなど		
授業計画	1　保育実習の概要　ペープサート紹介		
	2　.実習の心得　個人票作成		
	3　保育所の1日の流れと保育内容の理解　実習目標を立てる		
	4　実習日誌を書く意義と記入の仕方		
	5　実習日誌:エピソード記録の書き方について		
	6　産学連携		
	7　部分実習指導計画について		
	8　実習に伴う書類作成　事務手続きの確認　実習課題		
	9　オリエンテーションについて　実習日誌の書き方		
	10　グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成		
	11　実習日誌:ドキュメンテーション記録について		
	12　産学連携		
	13　手遊び・絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表		
	14　まとめと振り返り・お礼状の書き方		
	15　試験　最終確認		
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示　保育所保育指針」(チャイルド社)		
参考文献			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2024年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ⅰb 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。		
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。		
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	講義内容に関するノート提出(60点)
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み姿勢（20点）、実習目標の作成（20点）
授業方法	ノート作成を伴う講義受講		
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明）		
	2　子どもの育ちの理解①：愛着障害（1）		
	3　子どもの育ちの理解②：愛着障害（2）		
	4　関わりの技術①：実際の実習より（ロールプレイ）		
	5　関わりの技術②：「視点」を養う		
	6　産学連携週		
	7　子どもの育ちの理解③：発達障害		
	8　関わりの技術③：療育場面より		
	9　施設実習先の発表		
	10　施設実習への具体的準備①：個人票作成、オリエンテーション準備		
	11　施設実習への具体的準備②：実習目標の作成（1）		
	12　産学連携週		
	13　施設実習への具体的準備③：実習目標の作成（2）		
	14　実習日誌の理解と練習		
	15　施設実習への具体的準備：実習前／実習中／実習後にすること		
必須テキスト	特になし		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	25　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	25　%	専門的知識・技術	10　%

2024年度　講義要綱

科　目	子どもと保育　選択必修　講義	講　師	松森 照幸
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。		
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。		
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。（①コマ目）	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。（②コマ目）	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(20点),課題(15点),提出物(15点)
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。		
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する		
	2 「保育所の一日」一日のながれを知り、実習をイメージする		
	3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する		
	4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる		
	5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う		
	6 産学連携現場活動		
	7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする		
	8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする		
	9 「お礼状の書き方」を知り、実践する		
	10 保育士の話を聞き、保育の楽しさを知る		
	11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す		
	12 産学連携現場活動		
	13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する		
	14 「まとめ」前期授業で学んだ事を整理し、実習への道しるべを立てる		
	15 わくわくタイム		
必須テキスト	なし		
参考文献	なし		
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ　選択必修　講義	講　師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	個人レッスンと自主練習への取り組み度（20点）、実技試験発表（30点）
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	グループ演習への積極的参加度（20点）、実技試験発表（30点）
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。		
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。（Ⓐ Ⓑ2グループに分かれて45分で入れ替わる）		
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。		
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ保育士に必要な音楽基礎知識（五線紙は授業内で配布する。）		
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方（呼吸法・発声法）		
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。		
	6　産学連携		
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑわらべ歌・手遊び歌の演習		
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌の演習		
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ簡単な2声のハーモニー（共働作業を楽しむ）		
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの演習		
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。		
	12　産学連携		
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。		
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導　（Ⓐ Ⓑ共）		
	15　実技試験（発表会）と各自の振り返り(ⒶⒷ共)		
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社		
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編		
担当教員の専門分野等	専任：木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	15　%	専門的知識・技術	40　%